

奨励品種「にじのきらめき」について

1 品種特性

早生品種。出穂期は「キヌヒカリ」と比較して2日程度遅く、成熟期は4日程度遅い。

収量は「キヌヒカリ」より10～16%多い。

耐倒伏性は「強」で、多肥条件でも倒伏しにくい。

白未熟粒は少ない傾向にあり、高温登熟性^{とうじゅく}は「キヌヒカリ」より優れる。

穂発芽性は「難」で、「キヌヒカリ」より優れる。

2 栽培上の留意点

田植は5月下旬～6月中旬、収穫は9月上旬～9月下旬となる。

基肥は窒素成分で4kg/10a、追肥は出穂16日前を目安に同3kg/10aを基準として行う。追肥はしっかり行う。

穂数が多く、栽植密度の目安は60株/坪（畦間30cm×18cm）とする。

出穂後の積算温度1100～1200℃を目安とし、黄化粳割合90%（青粳割合10%）が収穫適期である。



写真1 「にじのきらめき」の栽培の様子
(左が「キヌヒカリ」、右が「にじのきらめき」)



写真2 「にじのきらめき」の粒形

登熟とは：種子が成熟すること

穂発芽とは：収穫時期に倒伏した場合や長雨が続いた場合に、粃が穂についたまま発芽すること。穂発芽が発生すると品質が著しく低下します。

黄化粃とは：水稻の穂が黄金色に色づき、成熟が進んだ粃のこと